EC

かつて壮大な映像百科をつくろうと夢見た人々がいた。

20世紀の映像百科事典

エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ

を見る

連続上映会 1 屠畜

上映プログラム

中央ヨーロッパ・チロル/ヴィルアンダースの家庭の屠殺 ベーコンとソーセージづくり

北ヨーロッパ・ノルウェー/サミ人/初秋のトナカイの狩り集め、耳への刻印、去勢、屠殺と解体

北ヨーロッパ・ノルウェー/サミ人/トナカイ肉解体とパン焼き、食事の準備

西ニューギニア・中央高地/ファ族/豚の屠殺と料理

特別上映:『ある精肉店のはなし(仮)』(監督:纐纈あや)ラッシュフィルム

〈ゲスト〉

関野吉晴（人類学者・外科医）

北出新司（北出精肉店店主）

本橋成一（写真家・映画監督）

2012.12.12 水

18:30開場/19:00開演

会場:Space&Cafeポレポレ坐

予約:03-3227-1405 event@polepoletimes.jp（ポレポレタイムス社）

料金:予約1,000円/当日1,500円（+要ワンドリンクオーダー）

本上映会シリーズは、20世紀を代表するこの壮大な映像アーカイブを今に生きる私たちの目線で読み直し、虫干しして、多彩な分野の人々との対話を通して新しい息吹をふき込む試みである。これらの映像の中に、私達の未来に必要な宝物を見つけられるかもしれない。

エンサイクロペディア シネマトグラフィカ (EC) とは?

1951年、ドイツ・国立科学映画研究所で、科学映像をめぐる一大計画が始まった。「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」(EC)と題するこのプロジェクトは、世界中の知の記録の集積をめざした映像による百科事典。以後30年近くの歳月を費やして数多くの研究者・カメラマンが世界各地に赴き、現在は失われた暮らしの技法や儀礼などの貴重な記録を含む、2000タイトル強の映像アーカイブが制作された。ECはさらに各国機関に渡り、日本でも1970年より下中記念財団によって、アジアで唯一のフルセットの映像が管理・運用されている。だが21世紀現在、本家ドイツのECプロジェクトは解散、日本でも16mmフィルムという記録媒体が障壁となり上映機会はほぼ途絶えていた。

本上映にあたり

短編映像のモザイクの海からさがす宝物

「食べる」「寝る」「子を産む」…さまざまな行動をテーマに、チンパンジーに爬虫類、微生物から人間までを記録した生物学シリーズ。民族学分野では「パン作り」だけで世界40地域のタイトルが並ぶ。

提唱者G.ウォルフは、演出や解説、BGMを徹底的に避けて比較を可能にする体系的な映像モザイクを目指し、ECは20世紀の民族誌映画のひとつの型を作ったとも言われる。動物行動学の父コンラート・ローレンツ、EC愛好者から制作者に転身した元テレビ修理工マンフレッド・クルーガーなど、多彩な才能が結集して培われた映像制作の手法は後に各国に伝授され、そこから山形国際ドキュメンタリー映画祭等でも活躍する映画監督が育ちつつあるという。

ケータイの動画撮影、Youtube映像……あらゆる断片映像の波に溺れる私たちの日常。こんな時代だからこそ、映像記録の原点ともいえるこの映像の百科事典が、新たな輝きを放つに違いない。今まさに、「客観」や「科学」の括りからECアーカイブを解き放ち、魅惑の標本箱の宝探しにくり出そう。

連続上映会 ❶ 屠畜

ECフィルム上映会、第1回は「屠畜」特集。日常わたしたちが口にする肉が台所に届くまでを見たことがある人は少ないだろう。ECフィルムのなかには、それぞれの地域・民族の背景によって培われた技を活かした屠畜の様子が多数記録されている。ゲストに人類学者・外科医の関野吉晴さん、ドキュメンタリー映画『ある精肉店のはなし(仮)』で現在撮影中の北出精肉店店主、北出新司さん、同作品プロデューサーで写真家・映画監督の本橋成一さんを迎え、それぞれの視点からの各地域の屠畜、また屠畜を通してその暮しをのぞくプログラムです。また、特別上映として「ある精肉店のはなし(仮)」(監督:纐纈あや)ラッシュフィルムからの上映も併せて行います。

ゲスト

関野吉晴(人類学者・外科医)

大学在学中に探検部を創設、71年アマゾン全域踏査隊長としてアマゾン川全域を下るなど、南米への旅を重ねる。93年からはユーラシア大陸経由でアフリカからアメリカへの約5万3千キロを自らの力だけを頼りに進むグレートジャーニーを始め、南米最南端の島から出発し、2002年ゴールのタンザニアに到着。04年には「新グレートジャーニー」にも挑戦、昨年ゴールしている。その間、医師としての勤務経験も持つ。現在、武蔵野美術大学にて文化人類学を教える。

北出新司
(北出精肉店店主)

大阪府南部にある「北出精肉店」店主。店では、家族で牛の飼育から屠畜・解体処理を行い、その精肉を自分たちの店で小売りするという今では珍しい精肉業の形が残っていた。兄弟と共に幼少から家業を手伝い、長年牛の屠畜に携わってきたが、何代も前から使用してきた102年の歴史を持つ公営の屠畜場が閉鎖されることになり、今年3月をもって、最後の屠畜となった。現在は小売りを中心に精肉業を営んでいる。

本橋成一(写真家・映画監督)

68年写真集「炭鉱〈ヤマ〉」で第5回太陽賞受賞。以後、サーカス、上野駅、築地魚河岸、大衆芸能など、市井の人々の生きざまに惹かれ写真に撮り続ける。95年、チェルノブイリ事故汚染地ベラルーシの村で暮らす人々を写した「無限抱擁」で日本写真協会年度賞、写真の会賞を受賞。98年「ナージャの村」で第17回土門拳賞受賞。写真家としての活動と同時に、ドキュメンタリー映画「ナージャの村」「アレクセイと泉」「ナミイと唄えば」「バオバブの記憶」を監督、「水になった村」「祝の島」「ある精肉店のはなし(仮)」(撮影進行中)をプロデュース。最新作は大阪・松原屠場で働く人々を記録した写真集「屠場〈とば〉」。

上映プログラム

- 中央ヨーロッパ・チロル/ヴィルアンダースの家庭の屠殺 ベーコンとソーセージづくり
- 北ヨーロッパ・ノルウェー/サミ人/初秋のトナカイの狩り集め、耳への刻印、去勢、屠殺と解体
- 北ヨーロッパ・ノルウェー/サミ人/トナカイ肉解体とパン焼き、食事の準備
- 西ニューギニア・中央高地/ファ族/豚の屠殺と料理
- 特別上映:『ある精肉店のはなし(仮)』(監督:纐纈あや)ラッシュフィルム

■共催:公益財団法人 下中記念財団(平凡社の創立者下中弥三郎を記念し、教育・出版に関する助成を実施)、ポレポレタイムス社
■協力:下中菜穂(暮らしの自由研究室)、丹羽朋子(FENICS)、川瀬慈(国立民族学博物館)、岡田一男(東京シネマ新社) ■ドイツ語翻訳:星川真樹、コールハーゼ顕 ■グラフィックデザイン:大橋祐介

次回予告 連続上映会 ❷ ECフィルムのなりたち/アフリカの音楽・芸能(仮)

2013年1月下旬予定 ●会場:Space&Cafeポレポレ坐 ●ゲスト:川瀬慈(国立民族学博物館助教、映像人類学研究)ほか

予約:03-3227-1405 event@polepoletimes.jp(ポレポレタイムス社) 料金:予約:1,000円/当日:1,500円(+要ワンドリンクオーダー)